

本年3月11日に発生した東日本大震災は、私たちに様々な課題と教訓をもたらしました。中でも大きかったのは、危機管理と政治・行政の対応という問題です。日々の備えと震災直後の初動によって被害の結果が大きく変わってくるということ。そして災害後の様々な対応をめぐって、政治・行政の果たす役割と責務がいかに大きいかということ。そこで、今回のフォーラムでは、自治体の備えと危機管理についての現状と課題、そして政治・行政の災害後をめぐる対応について論じながら学んでみたいと思います。

今回 第一部では、テレビ等でもお馴染みであり、新聞記者として永年、国家の危機と政治指導者をウォッチし続けてきた田勢康弘さんをお迎えし、震災後の日本についてご講演いただきます。第二部では板橋第六小の出身であり今回の震災で液状化や選挙実施の是非という危機に立ち向かった千葉県浦安市長、板橋区から危機管理担当部長、議会の災害対策調査特別委員長をお招きし、シンポジウムを行います。

ポスト3.11の地域・日本そして危機管理をどうするのか。この機会に多くの皆様のご来場をお待ちしております。

基調講演

Yasuhiro Tase

講師 田勢康弘氏(政治ジャーナリスト・日経新聞客員コラムニスト)

●プロフィール

1944年10月 中国黒龍江省黒河で出生。山形県白鷹町出身。早稲田大学第一政治経済学部政治学科卒。日本経済新聞社入社。記者歴40年の大半を政治記者として23人の内閣総理大臣を取材。ワシントン支局長、編集委員、論説副主幹、コラムニストを経て現在客員コラムニスト。

06年から4年間早稲田大学教授。米国ハーバード大学国際問題研究所上席研究員、元東京大学講師。現在、TV東京で「田勢康弘の週刊ニュース新書」(毎週土曜日午前11時半から1時間)キャスター。1996年度日本記者クラブ賞受賞。

著書『国家と政治 危機の時代の指導者像』(2011年5月 NHK 出版新書)
『政治ジャーナリズムの罪と罰』 『指導者論』(新潮社) など多数。

シンポジウム

Symposist

松崎秀樹氏(千葉県浦安市長)

昭和25年世田谷区生まれ。板橋区立板橋第六小学校卒。明治大学卒業後、サラリーマン、代議士公設秘書を経て、平成3年より千葉県議(2期)。平成10年、市長当選(現在4期目)。

平成21年、市民、事業者、市などのそれぞれの責務と役割を明らかにしたうえで連携し、災害対策に取り組んでいく決意を表明するため『災害対策基本条例』を制定。

今回の震災では液状化や県議選実施をめぐり危機に立ち向かう。また、安心して住み続けられるまちをめざして、国・県の支援制度に加え、市独自の支援制度も策定。

全国市長会理事、全国首長連携交流会代表世話人、日本自治体危機管理学会理事。

河野雄紀氏(板橋区議会議員、災害対策調査特別委員長)

昭和45年板橋区生まれ。ノースイースタン大学(ボストン市)ジャーナリズム学部卒。東京国際大学大学院修士課程修了(国際関係学修士)。都議・衆議院議員秘書を経て平成15年より区議(3期目・自民党所属)。文教児童委員長歴任。NPO法人シンクいたばし相談役。

鍵屋一氏(板橋区福祉部長兼危機管理担当部長)

昭和31年秋田県生まれ。昭和58年入区、防災課長、板橋福祉事務所長、契約管財課長、区民文化部参事地域振興課長等を経て平成23年より福祉部長。本年6月より危機管理担当部長を兼務。

参加申込用紙(FAX用)

FAX番号 03-5926-6382

| | | |
|---------|--------|-------|
| 郵便番号・住所 | | 氏名 |
| 電話 | E-mail | (所属等) |